

東日本大震災から 15 年

- ・ 15 年前・・・6 年生はまだ生まれていません。
 - ・ 2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、東北地方の宮城県の海底で大きな地震が発生しました。
 - ・ 地震の揺れによって、建物が壊れてたくさんの人が押しつぶされ、なくなる被害が出ました。
 - ・ その揺れはここ大津でも感じられました。私は卒業式練習で体育館にいました。
 - ・ 東北では地震の後には、高さ 10m を越える大きな波、津波が海からやってきました。
 - ・ 津波は、海のそばの街を襲いました。
 - ・ さらに、地震によって原子力発電所という施設も壊れ、放射能という人の体によくないものが漏れて、広い範囲に被害が出てしまいました。
 - ・ 東北地方を中心とした東日本全部に及んでしまったので、「東日本大震災」と呼んでいます。
 - ・ 死者は 2 万人。今も行方がわからないままの人は約 2500 人。（数値は諸説）
 - ・ 街を襲った津波が多くの人を水に巻き込んで海に引きずり込み、行方がわからないのです。
 - ・ 津波によって水にのみ込まれた面積は、大津市がすっぽり水に沈んでしまうほどです。
 - ・ 震災後、生活に必要な電気・ガス・水道・通信などが止まり、不自由な生活になりました。
 - ・ 電気が点かないので日が沈めばもう真っ暗です。
 - ・ テレビを見ることはできず、携帯電話も充電できません。
 - ・ 3 月の寒い時期なのに、暖房も使えませんでした。
 - ・ 水が出ないので、水をくばる給水車には長い行列が出来ました。
 - ・ 飲み水だけでなく、トイレやお風呂、料理にも水は必要です。
 - ・ とても不自由な中、地震や津波で自宅に戻れなくなった人々は避難所で生活をしました。
 - ・ 避難所は主に自宅近くの学校などです。
 - ・ 学校が避難所になったので、子どもたちは学校に通えなくなりました。
 - ・ 地震や津波で道路・港・空港が使えなくなったため、食べ物飲み物だけでなくいろいろな物が届かなくなりました。
 - ・ あまりにも被害が大きかったので、13 年たった今でも街は元通りになっていません。
 - ・ 今なお、避難生活を送っている方々もいらっしゃいます。
- 一番大切なのは、どんな時でも、どう命を守るかを真剣に考えて行動することです。自助・共助という言葉があります。自分の命を助けると同時に、協力してお互いの命を助け合うこと。「危ないから逃げよう」と伝えたり、怯えて抱え込んでいる人に優しく手を携えたり、自分だけでなく人にもものを分け与えたり・・・。普段からその優しさをもっているかです。

2 年前の元日には能登半島地震があり、滋賀県でも大きく揺れました。テレビから避難を痛切に訴えるアナウンサーの声は今も耳に残っています。

日本は地震大国です。いつ大きな地震が起こるかわかりません。

当たり前の生活が一瞬にして当たり前でなくなります。

だから、「当たり前」は「有り難い」ことなのです。

3 月 11 日「東日本大震災の日」は、当たり前のことに感謝し、命を大切にすることを誓う日です。

さて・・・

私は若いときからソフトボールに励み、2010 年 7 月に女川町で開かれた全国大会にも出場しました。美しい海、おいしい穴子も堪能しました。女川の町・宮城県の良さに触れました。

しかし・・・

翌 2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分 東日本大震災は起こってしまいました。

そして・・・

2012 年 7 月。私は、何ができるかわからないまま、宮城・女川を訪れました。

波にのまれた町の跡、復興の兆し・・・両方があいまった、なんとも胸の痛む光景ばかりが目に見え、飛び込んできました。大川小学校にも訪れ、手を合わせてからもうこんなに年月が経ちました。

<子どもたちへ>

15 年前の 3 月 11 日午後 2 時 46 分。東日本大震災が発生しました。

立ってられないくらいの巨大な地震が来て大きな不安が心を襲い

その後訪れた大きな津波によってさらに多くの方の命が奪われ

美しい町が飲み込まれ

恐怖と悲しみに包まれました。

私たちは大地震の恐ろしさ、そして人々の悲しみ、つらさを忘れてはいけません。

そして今当たり前のようにある便利な生活、今ある命について改めて考え、感謝する機会です。

被災した人々に思いを馳せられる人になってほしい。

その人はきっと多くの人に優しくできる人になるはず。

そして私は、今当たり前のようにある日常を、幸せとして感謝します。